

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27 年 7 月 13 日

【事業所概要【事業所記入】】

事業所番号	3492500164		
法人名	医療法人社団 愛心会		
事業所名	グループホーム ジューンベリーの家		
所在地	広島県東広島市河内町入野2139番地の1		
	電話番号	082-420-7282	
自己評価作成日	平成 27年 5月 13日	評価結果市町村受理日	平成 27 年 7月 24 日

※事業所の基本情報は、介護サービス公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価機関概要【評価機関記入】】

評価機関名	一般社団法人 みらい
所在地	広島県福山市山手町1020番地3
訪問調査日	平成 27 年 6 月 29 日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人が母体であり、診療所と連携をとり病気に対応しております。
共同スペースは吹き抜けになっており、全体が広くゆったりくつろげる他、落ち着いたダークブラウンを基調とし、安らげる空間を作っています。
共有スペースに隣接して庭があり、気候の良い時には外へ出て体操をしたり気分転換を図っています。
就寝前のフットマッサージを行い、快適な眠りにつなげたり、個別の時間を確保しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

田園地帯の中にあるが駅も遠くない位置にある。周りの風景で四季の移り変わりを感じる事ができ、落ちついて穏やかに過ごせる環境である。母体が医療機関であり、緊急時や夜間等24時間対応ができ安心、安全である。地域との関わりも管理者が定期的に事業所のミニ通信を地域の各家庭を訪問し届ける事で信頼関係と事業所の理解が得られる働きかけをされ今では関係が築かれ地域の一員になっている。又、年4回地域交流会を開催し家族、地域の方、ボランティア等沢山の方の参加があり、ネットワークが広がっている。ケア面に於いても利用者一人ひとりに細やかに接する事で状況把握が早く適切な対応ができる体制となっておりと共に就寝前のフットマッサージが利用者への思いやりと安眠に繋げられる支援を実践され心あるケアに努められている。又、利用者の日頃の様子をDVDに残し運営推進会議でその様子を見て頂き現状把握をしてもらい、それぞれ立場の違う方々の意見を真摯に受け止め、サービス向上に繋がられている。管理者、職員は常に理念を共有し統一したケアで利用者本位の暮らしができる様一丸となり取り組まれている。大家族のように共に助け合い温かさや優しさに溢れた事業所である。今後の取り組みが楽しみである。

V. サービスの成果に関する項目【アウトカム項目】

項目		取り組みの成果(該当するものに○印)		項目		取り組みの成果(該当するものに○印)	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼすべての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼすべての家族と
		○	②利用者の2／3くらいの				②家族の2／3くらいと
			③利用者の1／3くらいの				③家族の1／3くらいと
			④ほとんど掴んでいない				④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に一度程度ある				②数日に1回
			③たまにある			○	③たまに
			④ほとんどない				④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼすべての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②利用者の2／3くらいが			○	②少しずつ増えている
			③利用者の1／3くらいが				③あまり増えていない
			④ほとんどない				④全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き活きた表情や姿が見られている		①ほぼすべての利用者が	66	職員は生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
		○	②利用者の2／3くらいが				②職員の2／3くらいが
			③利用者の1／3くらいが				③職員の1／3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどない
60	利用者は戸外の行きたい所へでかけている		①ほぼすべての利用者が	67	職員から見て利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2／3くらいが			○	②利用者の2／3くらいが
		○	③利用者の1／3くらいが				③利用者の1／3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼすべての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
			②利用者の2／3くらいが			○	②家族等の2／3くらいが
			③利用者の1／3くらいが				③家族等の1／3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼすべての利用者が				
		○	②利用者の2／3くらいが				
			③利用者の1／3くらいが				
			④ほとんどない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症になってもその人らしく穏やかに明るくその人生を生き生きと過ごして頂けるよう、昔の人生経験を活かし、調理への参加をして頂いたり、役割を見つけその役割が果たせるようお手伝いしています。理念はどなたでも見れるよう玄関に掲示しております。	理念の中にある(その人らしく、その地で、いきいきと明るく楽しく過して頂く)という理念を職員の目につき易い更衣室等に掲示すると共にミーティングや研修の際にも周知し共有し、統一したケアに繋げている。日々個々に沿ったケアに心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流会を行い、近隣の方にお越しいただきくつろげる時間を設けております。地域の行事(夏祭りや秋祭りなど)への参加や行事の際歌のボランティア等を招き交流が持てるよう努めております。	福祉祭りに作品を展示したり、とんどやお宮のお祭り等にも地域の一員として参加すると共に地域交流会を事業所内で年4回行い沢山の方の参加が得られ楽しみの場となり交流が図れている。ミニ通信も各家庭に持参し交流を深める取り組みもされている。認知症勉強会には講師として出られる等地域貢献もされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座などを開催し、地域の方々に向けて認知症の理解を拡げております。また、支援の方法等の相談にも応じております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を開催した際に行事や普段の様子のDVDを見て頂いております。会議での意見は職員で共有し、サービス向上に活かしております。	家族代表、地域の方、民生、行政、包括等の参加の下、事故報告や外部評価の説明等多岐にわたり報告すると共に日常生活や行事等をDVDで見てもらい実情を理解していただき立場の違う方々の意見を真摯に受け止めサービスに活かしている。毎回有意義な会議となっている。問題提起の案件は事後報告するよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加や日常的な相談、また事故や些細な事でも相談報告を行い協力関係を築いております。	疑問点などがある場合はその都度相談し、助言等得ている。地域のケア会議にも出席しアドバイス等してもらい馴染みの関係ができ協力が得られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型介護サービス(介護予防サービス)指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアを実践している	日中は常に開放しております。内外問わず研修に参加したり、職員間で話し合い周知徹底に努めております。	外部研修や内部研修等で周知理解されている。又、事あるごとに話し合い拘束のないケアに努めている。不穏な状況になった場合は散歩などで気分転換を図ったり、マンツーマンで根気強く対応する様、職員間で意識統一した支援をされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修や外部研修への参加や職員ひとりひとりが知識を身に着け意識しながら介護に努めております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に内部で研修を行っております。個別の必要性に関しては適宜ご家族と話をしております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の説明及び同意など、充分に行うと共に入院時や必要に応じて適宜口頭で確認を行っております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族面会時に話を伺い、都度職員と共有している他、ご家族の代表の方にも運営会議に参加して頂いております。また、ご家族同士が交流を持てるよう、年1回バーベキュー大会を行っております。	事業所主催の交流会や訪問時、運営推進会議等で意見、要望を把握する様務めている。毎月、利用者担当の職員が写真を添え日々の様子をお手紙でお知らせする際にもお願いすると共に電話で聞く事もある。その中の要望等については反映させると共に個々に対応している。写真付きミニ通信も送付されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回職員間で会議を行う他、常日頃から職員同士で話を行い、運営に反映できるよう取り組んでおります。	日々気付きがあれば気軽に言える関係であり、職員会議等でも聞く機会がある。意見等は連絡ノートに記録し、検討されヒートバックされると共に運営にも反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回程度入居者の体調確認と職員の勤務状況を把握するために職場訪問を行い、就業環境の整備に努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加を勧め、スキルアップをサポートしております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修案内などは適宜回覧し、交流会や研修などへの参加を促しております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前よりご本人の面談の中で聞き取りなど行い、ご本人に安心して頂くよう努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前よりご家族の話を聞き取りしております。主介護者・副介護者の方など出来るだけ話ができるよう努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	聞き取りをしたり、入居から過ごして頂く中で少しでも「自分がこうしたい」と言うことが実現できるよう複数の機関に確認、相談し、できることがあればご家族とも相談していております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理の仕方や味付けなど教えて頂いております。また、積極的にして下さること(洗濯物干し・たたみ作業や机拭き)などはそのままお願いしております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員だけでなく、連絡をしあいながらご家族にも協力していただき、共にご本人を支える関係を築く様努めております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日常で慣れ親しんだものを持ってきていただいたり、近隣の方との交流は引き続き行ってもらっております。	自宅近くの方が訪問されたり、家族と共に外出する事もある。馴染みの美容院を利用したり、希望で出身地までドライブする等、今までの生活とかけ離れない様な支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の特性を理解した上で、入居者同士の話には様子を見ながら適宜間に入り、言語障害の方には補足を入れたりしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて適宜連絡をとり、相談助言を行っております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人に聞き取りを行い、ケアプランに反映しております。ご本人に難しい場合は行動からの推察・ご家族への聞き取りなどから反映しております。	生活歴や日々の会話の中や表情、行動等から把握し個々に合わせた対応をされている。自己表現される方もおられる。表出困難な場合は家族と相談し検討しながら可能な限り思いに沿う支援をされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にこれまでの過ごし方を聞き取りしております。また、入居後も会話の中から生活に関しての把握を行っております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り時職員同士気になること・観察する点など伝達記録しております。また、ノートでも伝達しております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族面会の際にはなるべく話をし、ご意見を伺うようにしておりますが、業務の兼務や勤務状況から充分ではない状況があります。	アセスメントやモニタリングを基に本人、家族の意向を反映させ、主治医や職員の意見も取り入れ柔軟且つ本人本位の計画を作成している。モニタリングも定期的の実施され個々に沿った期間で見直しもされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間での会議の際に意見を出し合いながら、プランの見直しに役立てる様になっておりますが、業務の兼務や勤務状況から充分ではない状況があります。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時、その時に起こった物事に対し行政やあらゆる機関に相談しております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域交流を図り、地域の行事への参加をし、地元住民の方々と共に楽しく過ごしております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の段階で受診先については希望を反映しております。入居中の受診についても緊急以外はご家族と相談しながら受診先を決めております。	本人家族の希望を大切した対応をされ、日々の状況も情報提供表を持参し医師に的確に伝える体制もできている。結果についても家族と共に共有している。訪問歯科支援もあり、通院介助も柔軟に対応し緊急時や夜間も24時間対応出来る体制ができている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1日1回、熱・脈・血圧を測り、異常があれば看護師に報告する体制を作っております。また、いつも完食の方が残されるなど、気になることがあれば、職員間での情報共有や看護師への報告を行っております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	普段から研修会・交流会へ参加し、MSWとの関係作りを行っております。また、入院時は面会に行き病状確認など行っております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医との連携の中で今後の生活の仕方やご家族の思いも共有し、ご本人・ご家族・医師・事業所などで連携をもって支援しております。必要に応じ、ご家族面会時に終末期に関する話をする機会を作っております。	重度化に関する指針も作成し説明もされ同意も得ている。状況変化が起きた場合は、家族や本人の希望を重視し、家族、医師、職員等で繰り返し話し合い共に共有し家族の協力を得ながらチームで支援に取り組まれている。協力医との連携と管理者が看護師という事もあり希望に沿った支援で看取りもされた。また、資料を基に看取研修も実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に実践研修を行っておりますが、本当にその場になった時に対応できるかどうか不十分なところはあります。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に対しては、年2回避難訓練を実施しております。1回は夜間を想定し、連絡網の時間確認、駆けつける時間なども計測しております。 地震・水害等の災害時に関しては、定期的に研修を行っております。	年2回、昼夜を想定し、利用者や地域の方と共に通報、消火、避難等の自主訓練を実施している。連絡網も作成され、細やかな手順での確な対応ができる様取り組まれていると共に地域との相互協力の関係が整っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人を尊重した言葉がけや対応を行うよう努力しております。	上から目線や命令口調、また、馴れ合いになっても一人ひとりの尊厳を大切にした対応に心掛ける様周知されている。内部、外部研修にも参加し職員間で意識統一を図っている。個人情報にも配慮され、写真掲載等にも承諾を取っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望を可能な限り優先し、ご自分で決定ができるよう支援しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の思いや希望を可能な限り優先し、ご自分で決定ができるよう支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の際、ご本人に服を選んでいただいております。また、途中で着替えることがあれば支援しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時期にもよりますが、準備・もりつけ・お皿拭きやテーブル拭きなどしてできるだけして頂いております。 ご近所等から頂いた新鮮な野菜はすぐ食事に取り入れ、季節感を味わっていただいております。	旬の食材を取り入れ、調理師免取得の職員もいて献立も五品と決めておられ、常に栄養バランスに配慮している。職員も同じ物を食され、食材の話や食を促す声かけをしながらの楽しみの時間となっている。又、朝食は週3回はパン食としパンの種類は個々好きなものを選んでもらっている。盛り付け等力量によりされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を記録する他、不足している方には好きな飲み物やゼリーにして形態など工夫しております。また夜間水分が必要な方にはペットボトルにお茶を入れ、お渡ししております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの確認を行っております。また、歯科医院の協力をいただき、都度相談にのって頂いております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を基に声掛けを行っておりま す。パットの汚染や使用状況の把握を行 い、リハビリパンツの使用を減らすことがで きております。	個々の時間帯で声かけされ、今までの習慣を活かした 支援と機能維持にも繋げトイレでの排泄に取り組まれて いる。紙パンツから布パンツに変わった方もおられる。 自立の方には見守りで対応し、プライバシーにも配慮し ている。排便チェックも行い不穏にならない支援をされて いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に、牛乳や午前午後の水分補給 をしております。体操時にお腹のマッサージ も取り入れています。便秘が続く場合は看 護師に相談し、下剤薬の追加など調整を 行っております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を 楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決 めてしまわずに、個々にそった支援をしている	隔日で入浴して頂き、一人一人の希望に添えて いない状況があります。 嫌がれる場合は無理強いしないようにしてしま すが、何日も入浴していない状況であれば、足浴 を行うなどご本人が入る気持ちになる環境作りを しております。	隔日の入浴支援で個々の希望やタイミングを把握し、希 望に沿った対応をされている。一人ひとりお湯も替えら れ気持ち良く入浴してもらっている。最新型の特設浴槽 を設置され、あらゆる身体状態にも適応でき職員への負 担軽減にもなっている。拒否の場合は無理強いせず工 夫をし清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝は各々自由にされております。夕食後 にホールにおられる方にフットマッサージを 行い、安眠できるよう支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の確認は毎回行っております。内服薬 が変わった時には状態確認も細やかに行 い、変化が見られた時などや状態を看護師 に報告しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとの行事やご家族の集まりや面会な ど行っていたいております。日常生活の 中で洗濯物を干す・たたむ等役割を持って 頂いております。調理の手伝いを自ら申し出 て下さることも多く、その際はお願いしてあり ます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	時期にもよりますが、テラスや庭などできる だけ戸外に出られるよう支援しております。 また、春と秋には個別外出をできるだけ行っ ております。	地域の行事や四季の外出(お花見など)、また家 族と一緒に外出したり、個別対応でドライブなど気 分転換と五感刺激、また、楽しみとなる支援に努 めている。天候の良い日には散歩やお庭等に出 て、少しでも外気に触れる機会を持つよう取り組ま れている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて財布を所持してもらっております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	言語障害の方が手紙を書けるよう、練習のお手伝いや返事を書かれたりする支援を行っております。また、希望に応じて電話の援助も行っております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温湿度計を確認しながら適宜適温に努めております。花や収穫物を飾ったり、季節に応じた壁飾りを作成しております。	季節のお花や装飾品等がセンス良く飾られ、居室からリビングに続く廊下も広く死角もなく大きな窓からお庭に出る事もでき圧迫感のない空間となっている。又、天窓から明るい陽射が差し込み、室温にも配慮され、ソファ、畳スペースもあり好きな場所で自由に過ごすことができ、心和む共有の場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の様子を見ながら、適宜間に入ったり話をしたりと支援しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には好きなものを置いて頂いております。危険物(はさみなど)はお預かりしております	思い出の写真やタンス、寝具等、馴染みの物を持ち込まれ自分らしく工夫され違和感なく過せる環境作りをされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	夜間ポータブルトイレで自分で排泄ができるよう設置しております。シルバーカーの利用や手すりを使って歩行ができるよう環境を整えております。また、ベッドの配置や介助バーを設置し、トイレ内にも手すりを設置し、安全に動作が行えるよう環境整備を行っております。		

事業所名:グループホーム ジューンベリーの家

作成日:平成 27 年 7 月 24 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	・災害対策について 火災に関する訓練は実施しているが災害に備えた対策ができていない	災害発生時に備えた準備ができる	万一の災害に備えた備蓄品の準備と保管場所の検討を行う。 災害を想定した訓練を計画実施する。	6ヶ月
2	13	・職員を育てる取り組み 職員のメンタルヘルスケアに関する取り組みが不十分である	職員が意欲的に職務に取り組み介護の質の向上が図れる	メンタルヘルスケアの研修への参加をする。もしくは施設内にて研修を行う。	12ヶ月
3	34	・急変や事故発生時の備え 実際の急変時に対応できるかどうか不十分さを感じる	急変時の対応ができるようになる	色々な急変場面を想定した研修を計画実施する。 施設外での研修へも積極的に参加を促す。	12ヶ月
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。